関係者各位

**緊急事態宣言の下での今後の活動について**

新型コロナウイルスの感染拡大により、首都圏のみならず全国にも緊急事態宣言が発せられましたが、皆様は如何お過ごしでしょうか？

残念ながら、予定されていた日本空手協会の全国大会が、小学生から一般まで…全て中止となり、６月の県本部の昇段審査会も中止になりました。神奈川県空手道連盟や全日本空手道連盟の主な大会も中止となり始めています（中止となった大会の参加費は、県本部や県連から返金され次第、順次、皆様にもお返し致しますので、ゆうちょ銀行口座をお知らせ下さい）。

小田原市内の公共施設は、無期限の休館となりました。不要不急の外出を自粛するようにと市の広報カーが巡回アナウンスをするようにもなり、以前より日中の交通量も著名に減少しています。小学校、中学校、高等学校、専門学校や大学…ほぼ全ての教育機関が休校となっており、多くの企業や組織は在宅業務や休業に入り、あるいは廃業にまで追い込まれる状況となっています。一方、社会的なインフラを担う職業などは仕事が急増し、休養もままならず、激務に耐える人々が増えています。子供達は登校出来ず、塾や習い事にも通えず、友達や先生と会えず、学習や運動が不足しがちな状態が続いていることでしょう。家族で過ごす時間が増えて良い反面、社会的な関わりが減り、ストレスが溜まり、DVなどに発展するケースもある様です。

その様な状況を少しでも改善しようと、感染対策を講じて、何とか週に１度の活動を試みて参りましたが、今やそれも難しい情勢となりました。従って少なくとも緊急事態宣言が解かれるまでは、野外稽古も中止します。

集団での稽古は、暫くは難しい状況ですが、それぞれで自主稽古は続けて下さい。そして、その模様をお伝え下さい。こちらとしても出来る限りの指導を行って参ります。

物理的な条件が整わなくとも稽古は可能です。整えられた状況のみでしか稽古しなければ、実力もその範疇を超えることは出来ません。困難な状況を克服しようと試みることが真の稽古です。

定められた時間に定められた場所で定められた人々と定められた事をする…その様な安定的な生活に、現代人の多くは慣れ過ぎているように感じます。それ故、不測の事態に上手く対応が出来ない、不安や不満で心が占められてしまう、そんな人々が増えている様に感じます。苦難を避けて自己中心の世界観に留まり、自身を傷つけ、他者を傷つけてしまう、そんな人々が増えているように感じます。視点を変え、意識を変えられたら、不安だからこそ助け合い、不足するから補い合う、与えられる立場から与える立場になる、その様に考え行動できる人々が増えれば、もっと社会は良くなると思います。その時々の状況に応じ、周囲に気を配りながら自らを制して適応する、社会に貢献できる人の増加を望みます。その様な人を一人でも多く育てることが我々の使命であり、人としての道を示すことが道場の存在する意義だと思っております。現状の様に、集合できなくとも、直接会えなくても、より良い関係を築き、共に向上を目指す、時空を超えた関係性が真の道場だと思います。

協会の総本部や県本部からは、感染対策を講じ、種々の条件を満たせば、特別に支部単位で初段のみの審査会を行う事を許可する（その場合、審査内容は基本と形のみとする）との通達がありました。この様な状況でも、きちんと指導を受けながら稽古を続けていた者達には朗報です。しかしながら、指導を受けずに合格できるほど甘くありませんし、そもそも休会中では受験出来ません。情勢が好転し、集合して活動を再開できるまでは保留となります。とは言え、自主稽古を続けていなければ、技術や体力はどんどん低下します。独り善がりの稽古は過ちを犯し、間違った技術を身につけて、修正が難しくなる可能性があります。こまめなチェックが必要です。短時間で良いので動画をお送りいただき、チェックが出来れば幸いです。また、県本部では、新たな試みとしてWeb大会の開催を検討中です。決まりましたら連絡します。実現の際には、積極的なご参加をお勧めします。

辛くて、大変な状況ですが、皆も同様です。苦難の中にも学びや希望は必ずあります。苦難を経て人は真に成長します。道場の挨拶は「押忍」ですが、その由来は、押して忍ぶ（自我を抑えて我慢する…の意）という漢字を当てた結果、現在の形になったとも言われています。自我も必要ですが、自制して他者を思い遣り、他者の為になる力を育んで頂きたいものです。道場訓(五条訓) や松濤二十訓の教えを胸に頑張りましょう。

令和2年4月吉日　　　　　　　　　　　　　　　　日本空手協会 小田原支部 高橋 資芳